URAWA RED DIAMONDS YOUTH & JUNIOR YOUTH TEAM OFFICIAL REPORT

Little Diamonds

No. 48

●2010年3月31日●
発行：浦和レッドダイヤモンズ

埼スタのピッチに立つことを目指し、浦和レッズの一員としてサッカーに励もう

～指導者からのメッセージ

★また新しいシーズンが始まる。新しく浦和レッズの一員になった選手、赤いユニフォームがすっかり似合っている選手、最後の１年を迎える選手、６つの年代の選手たちはみんな希望と意欲に燃えて４月を迎えていることだろう。2010シーズンのスタートにあたり、コーチングスタッフを代表して、４人の監督が選手たちにメッセージを送る。

チャンスはある、トライして欲しい

堀　孝史 ユース監督

◆まず、新１年生に伝えたいことは、本当に１年生のときから試合に出るチャンスはあるし、トップに上がるチャンスもあるということ。だからトライして欲しいです。そして、それはサッカーでもそうですが、仲間に対しても、自分のキャラクターに対してもこういうふうにした方がいいということがあればやって欲しい。特に外部のチームからレッズに初めて来た選手は、まずこの環境に慣れなくてはいけないし、慣れるためには積極的になった方がいいと思います。また迎える方の人間はしっかりと仲間としてやっていって欲しい。だけど、その中でもみんなライバルであるという、そういう前向きな姿勢で常に臨んで欲しいです。

全体としては、大人にはまだ少し早いし、子どもでもないユース年代特有の若々しさのような良い部分を出してもらいたいです。今年もたくさんの方が見に来てくれると思うし、その人たちに何かを感じてもらえるプレーを見せて欲しいです。すぐにうまくなれるわけではないから、それが大前提だと思います。勝ちを求めることで、そういう何かを伝えていけるだろうし、あきらめずに全力を尽くす、そういう姿勢を持って日々励んで自分たちのサッカーをやっていって欲しいです。

どのカテゴリーでも戦う気持ちを

池田伸康 U－15監督

◆選手たちには、まずプロに絶対必要な、そしてどのカテゴリーでも大切になってくる、戦う気持ちというのを土台に持って欲しいです。その上で、ジュニアユースの年代には、止めて、蹴るという技術と持久性、そして、サッカーを楽しむということが必要だと思います。

僕らが目指すのは、全員攻撃、全員守備のサッカーです。そして見ていて楽しく、やっている選手も楽しめるようなサッカー。そこをぶれずにU－15担当の渡辺隆正コーチと一緒に追求していきます。関東リーグは１年間を通して戦う場ですから、どれだけ自分が成長できるかを試せる大会です。４月に出場できていない選手がシーズンの終わりには出場していることもありますから、選手には励みにして欲しいです。

グラウンドの中は、プロになるためにしのぎを削る厳しい場となりますが、一番は硬くならずにボールを触る喜び、楽しみというのが頭の隅に常にあり、選手自身が考えて動けるような、そういうトレーニングをしていきたいと思っています。

とにかく今のサッカーを楽しんで、あわてずゆっくりトレーニングをしながら、みんなにいずれレッズの星として埼スタのピッチに立って欲しいです。それが僕の夢です。

自分の将来にとって最も大切な時期

土橋正樹 U－14監督

◆中学１年生だった昨年は、小学生から中学生のサッカーに変わった新鮮さもあったでしょうし、浦和レッズの一員となった良いモチベーションもあったと思いますが、今年はそれに慣れてきて気持ち的にも多少緩みがちになるかもしれません。しかし、中学２年生というこの時期はみなさんの将来にとって非常に大切な時期です。身体や心が大きく変化する時期ですし、サッカー選手になる前に人としての成長にとって大切な時期です。この時期をおろそかにしたら、必ずそのツケは自分に返ってきます。いろいろな誘惑もある中で、今何をしなければいけないのかという、自分を見失わないで欲しいと思います。

またプレーヤーとしても技術が身につく時期です。成長の度合いというのは個人差がありますから、それを気にして自分を見失うことのないようにやっていって欲しいと思います。

自分の良さをなくさないように

名取　篤 U－13監督

◆サッカーは、小学生から中学生になるときの変化が一番大きいです。ボール、ピッチ、ゴール、試合時間、すべてがスケールアップしますから、まずこれに慣れることが大事です。グラウンドに来たら、まずできるだけボールを触り、仲間とお互いに長いボールを蹴るとか、練習が終わったらゴールを使ってシュート練習をやるとか、自分でもやれることはあります。

環境も変わります。これまでと違う学校で一番下の学年になるわけですし、多くの選手が電車で練習に通うことになります。練習から帰宅するのは夜の遅い時間になります。そういう中で、浦和レッズの一員として見られることが多いですから、我慢しなければいけないこともあります。

みんなうまいのは当たり前で、さらに何かを持っている選手たちがここに集まっています。その自分の良さをなくして欲しくないですし、自分のアイデアや判断を、プレッシャーの中でも出せるようになって欲しいです。最終的にプロになるには自分だけの武器が必要です。

人には伸びしろと伸びる時期というものがありますから、うちに入ったからにはレッズの一員としてジュニアユース年代の３年かけてじっくり育って欲しいです。

仲間とともに楽しく、そして競い合って向上

★2010シーズン、浦和レッズのトップチームにはレッズのアカデミーセンター出身選手が12人登録されている（ユース在籍中の岡本を含む）。これはクラブ史上最多だ。その選手たちの試合出場も昨季から格段に増え、日本代表選手も生まれた。レッズジュニアユース、ユースでプロを目指して頑張る選手たちに、12人のJリーガーたちからメッセージを送る。（試合出場数などは今年3月21日現在）

加藤順大
（かとう・のぶひろ）
GK

1984 年12月11日生まれ

西上尾イレブン→静岡中田サッカー少年団・静岡FC→清水エスパルスジュニアユース→大宮FC→レッズユース→（03年）レッズ加入

ナビスコ杯2試合出場

周りと話し、理解し合うことが大事

◆僕はユースからレッズに入ったんですが、すぐにレギュラーを取ってやる、という意気込みもあったし、性格もありますから、こっちからどんどん話しかけて、すぐに馴染みました。溶け込みやすい雰囲気もありましたし。僕のころは与野八王子グラウンドもなく、ほとんど土のグラウンドで練習していました。ユニフォームもトップとは違い、清水では同じだったのに何で？と思っていました。今はメチャメチャ環境が良いですね。

僕が小3のころJリーグが始まったんですが、僕はプロになりたいというよりも、自分はプロになるものだ、としか考えていなかったです。途中で駄目かな、と思ったこともないです。

指導者に言われたことで覚えていることはいろいろありますが、常に試合のことも意識しながら、ちゃんと学校の生活もきちんとしろ、ということです。僕はちゃんとしていましたよ。でも試合が近い日に体育の授業で持久走があると、先生に「今日はあまり速く走りません」と言って、理解してもらいました。また「周りからレッズユースの選手だと見られている」ということも意識しました。レッズを背負っている、ということですね。

僕はミニゲームでも、やった後に必ず仲間とそのときのプレーについて話し合うんですよ。たとえば、「あの場面ではもう少し開いてよ」とか。そこで「いや、でも相手が絞ってきてたから、あそこまでは開けないよ」とかいう会話が大事だと思うんです。そこで「ああ、順大は開いたところへ出したいと思っているのか」ということがわかるだけで次のプレーが変わってきます。そういうお互いの理解のためにも、相手に話をすることと、相手の話を聞くことは大事だと思います。

レッズでは、いつもアピールをしながら試合に出る準備をしています。レッズユース出身のGKでレギュラーになることをずっと思ってやってきました。

▲02年12月23日、Jユースカップ・横浜FM戦（ユース3年）

堤　俊輔
（つつみ・しゅんすけ）
DF

1987 年6月8日生まれ

新座たけしのキッカーズ→レッズジュニアユース→レッズユース→06年レッズ加入

Jリーグ18試合出場、ナビスコ杯7試合出場、天皇杯1試合出場、ACL1試合出場

どういう選手になりたいか考えて

◆下部組織にいてプロ選手が近くにいたので、プロになりたいという気持ちは常に持ってやっていたと思います。1日1日の練習を、目標を持ってやることが大事で、あとは自分がどういう選手になりたいか、ということを考えてやることです。僕自身も弱いところがあればそこを鍛えたし、長所を伸ばすにはそこをしっかり練習して試合でそういうところを出していこうと考えていました。目指すところがプロであるならば、常に上を向いて取り組んだ方がいいと思います。

自分が大きなケガをしてわかりましたけど、サッカーをやれているというのはすごく幸せだと思います。レッズの下部組織は、サッカーができる環境はすごく整っていると思うので、その幸せというのをしっかり理解した上で、1日1日の練習をした方が良いと思います。

西澤代志也
（にしざわ・よしや）
MF

1987 年6月13日生まれ

入間高倉イレブン→狭山ジュニアユースFC→レッズユース→06年レッズ加入
＊05年トップ登録

Jリーグ7試合出場、ナビスコ杯9試合出場1得点、天皇杯1試合出場

120％より、まずは100％を目指して

◆僕はレッズジュニアユースのセレクションに落ちて、地元のクラブチームに入ったので、中学生時代にレッズと対戦したときのモチベーションはすごかったです。試合中も激しく当たりましたし、ずいぶん言い合ったりしていました。だからレッズユースに入った当初は「大丈夫かな」と思っていたのですが、溶け込みやすかったです。

トップと同じユニフォームを着て試合をすることで、誇りを持ってやっていました。私生活がグラウンドに出る、と言われたことはよく覚えていますし、それは今も生きていると思います。サテライトの練習に来たときは、ランニングやクールダウンのときでも先輩から吸収しようとしていました。

よく「120パーセントで頑張ります」と言う人がいますけど、100パーセント出すのも大変ですから、まずそこを目指してやるべきだと僕は思います。

**エスクデロ
セルヒオ**
FW

1988 年9月1日生まれ

ベレス・サルスフィエルド→レイソル青梅ジュニアユース→レッズジュニアユース→レッズユース→05年レッズ加入
＊05トップ登録し、その後プロ契約

Jリーグ46試合出場3得点、ナビスコ杯13試合出場2得点、天皇杯2試合出場1得点、ACL1試合出場

人との出会いを大切にしてほしい

◆プロになるためには何をしなければいけないかと考え、どんなチームとやっても点を取る、点に絡むという強い気持ちでやっていました。

僕自身は高校1年のときに、現在レッズレディースの監督をやっている村松浩さんとの出会いがあったから、今、プロでいられていると思っています。8月に村さんが監督になったんですけど、その半年で成長できたと思うし、その半年でトップに上がることが決まったと思っています。

だから、出会いというのも大切にして欲しいです。どんなに合わないと思う監督でもコーチでも必ず成長させてくれるところがあると思いますし、言うことをしっかり聞いて、選手として起用してもらえるというのも大事なことだと思います。それと今のサッカーは戦術とか考えることが多いので、監督のやりたいサッカーを理解できる、戦術理解度の高い選手というのも、プロに必要な要素だと思っています。

してください～Jリーガーからのメッセージ

宇賀神友弥
（うがじん・ともや）

MF

1988 年3月23日生まれ

戸田南FC→レッズジュニアユース→レッズユース→流通経済大学→10 年レッズ加入

＊09 年トップ登録（特別指定）

Jリーグ3試合出場

夢を持ち続ければかなう、本当です

▲05年9月23日、高円宮杯全日本ユース（U－18）・浜名高戦（ユース3年）

◆僕のいた少年団では、6年生はみんな試しにレッズのセレクションを受けてみるみたいな雰囲気があったんです。合格するとは思っていなかったですけど、思い出作りみたいな（笑）感じでみんなと一緒に受けたら合格してしまいました。

もともとキック力には自信を持っていたんですが、考えを持ってパスを出すということがあまりなかったので、頭を使ってサッカーをすることが大事だということを6年間で学びました。それと練習が終わってからも5対2のボール回しをずっとやっていました。コーチも一緒にやってくれて、そこで身体の向きとか使い方とか、細かいことをいろいろ教えてもらいました。コーチたちは、担当が替わっても、いつも気にしてくれて声をかけたりしてくれました。そういう周りの方々の支えは大きかったと思います。

高3のときの高円宮杯は、もうトップに上がれないことが決まっていて、自分でも宙ぶらりんの状態でいました。あのままだったら、大学に行かずに就職していただろうと思います。でもグループリーグ3試合全部で得点して、俺まだいけるじゃん、もっとサッカーやりたい、と思い直しました。それで流経大に進みました。大学生になれば、いろいろと遊びの誘惑は多くなりますし、その中でサッカーをやめていった者もいます。だから良い仲間を作らないと、ここまで来られなかったのかな、と思います。

僕が大学にいる4年間、レッズとつながっていられたのは、アカデミーセンターで総務を担当している児玉（賢太郎）さんのおかげです。サッカーをやめようかと思って、児玉さんに報告したときに、「いや、もうちょっと頑張れよ」と言われて続けました。

今季レッズに入ってすぐに試合に出してもらいましたが、一つひとつのプレーに大きな声援をもらえて、それによってどんどん自分のプレーが良くなっていくような気がします。それはほかの試合では味わえないです。

いろんな人が「夢を持ち続けることが大事」だとか「強く思い続けていれば夢はかなう」と言いますが、本当にそうだということを、自分がプロになってみてわかりました。1日1日を本当に大切にすること、毎日積み重ねることが本当に大事だと思います。

大谷幸輝
（おおたに・こうき）

GK

1989 年4月8日生まれ

タイケンSC熊本→ブレイズ熊本→リベルタ北熊本→ベアーズFCエスパーダ→ランザ熊本→レッズユース→08 年レッズ加入

＊07 年トップ登録

自己アピールが大事だと学んだ

◆高校生になったら熊本の外に出たいと思っていて、中3のときに声をかけてもらったレッズユースに入りました。レッズの寮はみんなサッカーをやっている良い環境ですが、僕は環境がどうこうよりも自分自身だと思います。ただ寮にいるとプロの選手もいるので、刺激にはなります。僕がいたころは、長谷部誠さんがいて話もしました。ユースで学んだことは自己アピールをどんどんしていくことです。プレーではもちろんですが、声も出して、大げさなくらいアピールしろと言われました。

僕自身はユースの試合にあまり出ておらず、全国大会に一度も出ていないのは残念です。でも早い時期にそういう環境に置いてもらったのは良かったです。そういう機会を得たらぜひ大事にして欲しいと思います。特に県外から来ている選手は、せっかくレッズに来たのですから、トップを目指して頑張ってください。

濱田水輝
（はまだ・みずき）

DF

1990 年5月18日生まれ

FC和光リトルイレブン→De Anza Heaters→Santa Clara Sporting Ruckus→レッズユース

Jリーグ1試合出場、ナビスコ杯4試合出場

他人にない武器を持った方がいい

◆ユース時代は、監督の堀さんから言われたことをしっかりやろうと常に意識してやっていました。ボールをもらう前に周りを見るとか、パスを出すときでもしっかり抑えて蹴るとか、そういう一つひとつのことを意識してやっていました。あとは、考えて走ることが大切だと思います。誰かが動いたらそこにスペースができるので、自分もそういう感じでやっていました。自分で良いことをするというよりは、一人ひとりが動いて結果的にチームとして良いことができればというのは考えていましたね。練習後の自主トレも、自分はヘディングを毎日やっていました。何でもできる選手よりも、何か他人より抜けている武器を持った選手になった方がいいと言われていたので。

ユースの世界では、できると感じることもプロに入るとなかなか難しいということがありますから、常に上を目指して練習をして欲しいと思います。

山田直輝
（やまだ・なおき）

MF

1990 年7月4日生まれ

北浦和サッカー少年団→レッズジュニアユース→レッズユース→09 年レッズ加入
＊08 年トップ登録

Jリーグ21 試合出場1得点、ナビスコ杯6試合出場2得点、天皇杯1試合出場

調子良くないときもくじけず頑張れ

◆ユース時代、週に1回、体幹トレーニングやフィジカルを鍛える日があったんですけど、その週1のトレーニングをやっていなかったら、いま自分は戦えていないと思います。ユースの試合では身体を当てても負けないし大丈夫だと思っていたんです。でも去年トップで一番フィジカルの差を感じました。ユース年代では絶対に負けないくらいになっておかないと、プロでは厳しいです。それぐらいになっていても、すぐには勝てないと思います。

みんなチームが強くなるためにやっていたと思います。そのために練習から本気でやっていたことがお互いを向上させたのだと思います。僕は高2の1年間は、すごく調子が悪かったんですが、自分の実力はこんなもんじゃないと思ってやっていました。サッカーは波があるスポーツですが、調子の良くないときにもくじけずに毎日練習を頑張って欲しいと思います。

高橋峻希
（たかはし・しゅんき）

MF

1990 年5月4日生まれ

朝霞三原FC→レッズジュニユース→レッズユース→09年レッズ加入
＊08年トップ登録

Jリーグ12 試合出場1得点、ナビスコ杯8試合出場
＊ユース在籍中を含む

11人全員がユース出身者になる日を

▲05年12月29日、高円宮杯全日本ユース（U－15）・F東京深川戦（ジュニアユース3年）

◆プロになった昨年はいろいろと体験できた1年間でした。Jリーグ初ゴールもできたし、大宮に0－3で負けた試合のあとバスが出られなかったり（笑）。あのときは、やっぱりレッズというチームは強くないといけないと思いましたし、同じさいたまのチームに、ああいう負け方は許されないんだと思いました。二度と味わいたくないです。

レッズのジュニアユースに入ったのは、レベルの高いところでやりたい、というのが一番の理由です。当時のFC浦和が全国優勝していて、そのメンバーが多く入ると聞いてもいたので、そこでやりたいと思いました。最初の1年は楽しくてあっという間に過ぎました。帰宅が遅くなったので、夜更かしをしないように、帰ってすぐにお風呂に入ってご飯を食べて寝る、という意識はしていました。トップと同じユニフォームになったのは中2からで、毎年ユニフォームが替わるのでうれしかったです（笑）。ユニフォームを着たときに、ああレッズの一員になったんだという気がしました。

プロを意識したのは中3のとき、U－15の代表に選ばれてからですが、同期の（山田）直輝やタク（永田拓也）に負けたくないという気持ちで、毎日練習からガツガツ行っていました。その負けたくないという気持ちがあって今の自分があると思うので、良いライバルとチームメートに恵まれたと思います。高1のときからサテライトリーグに出してもらって、初めはプロと一緒に試合をするのが不安でしたが、そこでプロのパワーとスピードを経験できていたので、高3のときトップで試合に出たときに戸惑うことはなかったです。

ジュニアユース、ユース時代は、サッカーを楽しくやって欲しいし、悔しかったら練習に励んでください。夢は諦めないで。今、Jリーグの試合前にメンバー表を見ると、前所属チームがレッズユースという選手が増えてきました。これが全員そうだったら、どれだけ話題になるだろうと思いますし、レッズでは不可能なことではないと思います。そうなれば面白いレッズになると思いますし、毎年トップに上がってくる人を待っています。

永田拓也
（ながた・たくや）

DF

1990 年9月8日生まれ

三室サッカー少年団→レッズジュニアユース→レッズユース→09年レッズ加入

Jリーグ3試合出場、ナビスコ杯3試合出場

厳しいときもポジティブに

◆僕たちの年代は、直輝や峻希、ほかにもたくさんうまい選手がいて、チーム内の競争が激しかったですから、刺激を毎日受けていましたし、その環境が良かったと思います。プロというものをそんなに早くは意識していなかったんですけど、毎日の練習では一番になりたいという気持ちで練習をしていました。

僕は今、プロの厳しい環境の中でベンチにもあまり入れていないですが、ユースのときよりも、トップに入ってからの方が充実感があります。前向きにトレーニングを続けていけば、良い結果につながると信じていますから。ポジティブに自分を見つめ直して、本当に気落ちをすることはないと思っています。

みんなも、もしそういう状況にあるなら、ポジティブにやって頑張って欲しいです。チャンスはみんな平等にあると思うし、監督も見てくれていると思いますから。

原口元気
（はらぐち・げんき）

FW

1991 年5月9日生まれ

江南南サッカー少年団→レッズジュニアユース→レッズユース→09年レッズ加入
＊08年トップ登録

Jリーグ32試合出場1得点、ナビスコ杯7試合出場1得点、天皇杯1試合出場

後輩がどんどん出てきて欲しい

◆プロになるためにどうすればいいのか、ということを常に考え、向上心を持ってやっていたことがプロになれた要因なのかなと思います。ユースの練習は楽しかったですが、その中でも選手同士、常に真剣に競い合っていました。そういう積み重ねが大切だと思います。ユースのスタッフたちの話などをきちんと聞き、それプラスアルファ自分で考えてプレーをしていれば、間違いなくプロへの道は開けると思います。

プロを経験して感じた喜びというのは、やっぱりあのサポーターの前でプレーをするということです。それは毎試合感じています。良い後輩が出てきてくれれば僕らの刺激にもなりますし、どんどんユースから上がって来て欲しいです。

今季の自分は、なかなか先発で出るという位置ではないですけど、悔しいからまたあのピッチに立ちたいと思えるし、先発で出たいから僕は頑張れているので、悔しさや向上心があれば毎日努力できると思います。

岡本拓也
（おかもと・たくや）

DF

1992 年6月18日生まれ

道祖土サッカー少年団→レッズジュニアユース→レッズユース（在籍中）
＊10年トップ登録（プロ未契約）

Jリーグ1試合出場

僕でもこれくらいやれるのだから

◆ジュニアユースに入ったときは、毎日ついていくのが大変で、目標を小さく置いてやっていました。まずは試合に出ること、次はレギュラーになること、というふうに。中3のときに、「お前が引っ張っていかないと駄目だ」と言われ、それまで声もまったく出さなかったのを、意識して出すようになりましたし、そのころから自分が変わったと思います。

ジュニアユースのときに名取さんから、「お前はパスがうまければ代表に入れるよ」と言われたことがあって、それから1本1本のパスを大事にするよう意識しました。長所を伸ばしながらも苦手なところをなくすことが大事だと思います。

今年の3月14日にはJリーグにも出してもらって自分でもびっくりしています。埼スタのピッチに立ったときは足がすくんで視野が狭くなりました（笑）。僕でもこれくらいできるのなら、ユースのみんなもやれると思うので、自信を持ってやって欲しいと思います。

Little Diamondsは今号をもって発行を終了します。アカデミーセンターの情報は、浦和レッズオフィシャルウェブサイトに掲載していきます。
http://www.urawa-reds.co.jp/

浦和レッドダイヤモンズユース・ジュニアユース公式リポート　リトルダイヤモンズ　第48号　2010年3月31日
発行　浦和レッドダイヤモンズ　〒336-8505 さいたま市緑区中野田500　TEL 048-812-1001
編集協力／清風庵　　写真／清尾　淳、加藤澄人

VEGETABLE OIL INK
ミックス品